

---

# ようこそ！？銀魂ワールドへ！

あひるの子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

よつこそ！？銀魂ワールドへ！

### 【Nコード】

N4955I

### 【作者名】

あひるの子

### 【あらすじ】

私の名前は春瀬カンナ（はるせかんな）。最後の学生生活を平凡に送る21歳（大学四年生）の女の子だ。ある日、家に帰ると中学二年生の弟、シイナの叫び声が聞こえた。急いでシイナの部屋に行くと、シイナの姿はなかった。床には零れたジュースと『銀魂』の単行本。さつきまでシイナが片手ジュースに銀魂を読んでいたかのような光景だった。彼は何処へ消えたのか。銀魂ワールドへタイムスリップ！？弟を追って銀魂の仲間と江戸を駆け巡る、ドツタバタンなラブコメディになったらいいなあストーリーリイイイイ！！

第一訓：ジューズ飲みながら漫画読んじやいけません！零すでしょーが！！

私の名前は春瀬カンナ（はるせかんな）。最後の学生生活を平凡に送る21歳（大学四年生）の女の子である。

「卒業まであと一年か…」

桜が散つて、新緑が生い茂る木の合間から、5月の暖かな木漏れ日が降っている。

風も爽やか、空は晴天…

「あー……暇」

私にとってこの一年は学生生活最後の年。就活や卒論も既に終わっており、単位も取れているので、後は卒業するまでこの最後の年を遊びまくる…だけなのだ。

2

「みーんな相手してくれないし、つまんないなあ」

友達は就活や卒業に時間を費やしていたり、バイトをしまくっていたり、彼氏とイチャイチャしたり…

「しょーがない。帰ったら、シイナとゲームでもするか」

中学二年生の弟、シイナは中間テストが終えたばかり。きっと家に帰って見たかった漫画を読んでるに違いない。

\* \* \*

「ただいまー」

家に帰ってきてみると、母は留守だった。

「買い物かな？シイナー？」

私が弟の名前を呼んだその時…

「ギャアアアアアアアア！！」

二階からシイナの凄まじい叫び声が降ってきた。

「なっ何事！？」

尋常じゃない声に、私は急いで階段を駆け上がり、シイナの部屋に飛び込んだ。

「シイナ！？どうしっ…え？」

不思議なことに、部屋にシイナの姿はなかった。床には零れたジュース、最近シイナがハマっていた漫画『銀魂』の単行本が落ちていた。

「…………シイナ？」

部屋を隅々まで探す、シイナの姿は見あたらなかった。

そんなはずはない。今さっき叫び声を聞いたのだ。

私は零れたジュースの近くまで歩み寄った。倒れていたパソコン機の椅子のキャスターがカラカラ回っていた。

部屋に広がる光景はまるで、さっきまでシイナが片手ジュースに銀魂を読んでいたかのような光景だった。

## 第二訓：ジュース零すな！ベタベタするでしょーが！！

「あーあ、ジュース零して」

私はジュースの入っていたコップとジュースに浸かった漫画『銀魂』を拾い上げた。

「つたく、ベタベタじゃんか」

シイナは意外とおっちょこちよいだから、こんな事はよくあることだ。

「ジュース零したくらいで、あんな叫ぶことないのにねえ」

\* \* \*

シイナの部屋を掃除したあと、私はリビングでテレビを見ていた。

「…にしても、シイナのやつ本当に何処行ったんだろ？」

あの後、家中を探したがシイナは見つからなかった。

「まあ、夕飯になったらお腹空かせて帰ってくるか……」

私は視線をベランダに動かした。ベランダにはジュースに浸かってしまった漫画を干していた。

そろそろ乾いたと思い、私は漫画を手にとった。

私は少女漫画より少年漫画派だった。特に、ジャンプの漫画が好きだった。（『ハンターなんかー』とか『なると』とか『麦わらの…』とか…あれ？あんま覚えてないや）

高校に入ってから、部活と勉強に忙しかった為、漫画を読まなくなつた。

「『銀魂』ねえ…」

少し読んでみようと思ひ、ジュースで貼り付いた紙をペリペリと丁寧に剥がしながらページをめくつた。

「何この漫画。中二病みたいなストーリー…って、シイナも中二か」

大まかなストーリーは三人組の侍が江戸の町を大暴れ！！…みたいな話だ。

「あー、読むの面倒くさい。漫画ってこんなに目チカチカしたっけ？」

活字があまり好きでない私は大して銀魂を読まずにポンツと机へ投げた。その時…

…すけて

「…ん？あれ？今、何か声が聞こえたような」

…たすけて…ね…ちや

頭の中で誰かに呼ばれている…そんな感覚だった。

「え？何？私そっち？そっち系の力あんの！？」

ムリムリムリムリ！！私無理！！そーいうの超怖い！！！！

私は耳を塞いでリビングのソファーにうずくまった。

…助けて！ねーちゃん！！

「！！！！…シイナ？」

今の声はハッキリ聞こえた。

私の弟、シイナの声だ。

### 第三訓：石橋をたたいて渡っても無理なときは無理

「シイナ！？何処にいるの!?!」

家中を走り回って探すが無処にもいない。

…家にはいない…たぶん

「…家にいない?」

確かに、聞こえてくるシイナの声は、家の中からというより頭の中で響いている。

「じゃあ何処にいるの!」

…銀魂…の中

……はい?

…漫画の中…突然…吸い込ま…

「ちよっ、ふざけないの!おねーちゃんジューズ零した事怒ってないから、早く出てきなさい!」

…ほんとだよ!今、漫画の中に…ギヤアアアアア!

頭の中で割れるようなシイナの叫び声が響いた。

「シイナ?…シイナ!?!」

それから、シイナの声は聞こえなくなってしまった。

「何？何なの、何があったの！？シイナ！」

いくら問いただしても返事はなかった。

「……………」

私は改めて漫画『銀魂』を手にとった。

「漫画に吸い込まれたとか…言ってたよね」

んな非現実的なことがあるはずがない。てか、我が家でんなこと起こってたまるもんか！！

「…………ま、でも…一応ね」

私は一旦漫画をテーブルに置き、部屋に戻った。

\* \* \*

「よし、準備完了！」

お泊まりセット（洋服とか、お風呂セットとか）をリュックに詰め、背中に背負い込んだ。

「念には念だよね？ほら、行っちゃったら手遅れだから？持ってけ

るなら持つといた方がいいし？行けなかったらそのまま旅行とか行つちやえばいいし？」

……何やってんだか、私。いや、全然びびってないから。私、石橋たたきまくって渡るタイプだから。性格でちやうとというかなんとうか。

その時、突然漫画の本が眩い光を放った。

「わっ眩しい！！」

そして、もの凄い力で漫画に引き寄せられる。まるで引力が働いてるかのように強く、踏みとどまることが出来ない。

「嘘でしょ！？ムリムリムリム…っギヤアアアアア！！！」

思い切り漫画に引き寄せられたせいで、背負っていたカバンは吹き飛び、私の体だけ漫画『銀魂』の中へ吸い込まれていった…。

#### 第四訓：二次元に走って現実逃避はしちゃダメだ（前書き）

ここからカンナの長い長い、銀魂ワールドの生活が始まります。弟のシイナを探すために、漫画『銀魂』の世界に来てしまったカンナ。徐々に江戸の生活に馴染んでいき、銀魂メンバーとお友達？になったり恋愛？したり喧嘩ばっかしたり…ラブコメラインでやっていきますので、よかったら見てください。文章力は磨き中です。すみません。

#### 第四訓：二次元に走って現実逃避はしちゃダメだ

「…おい、大丈夫か？」

…んっ…あれ？

「土方さん、この女もう手遅れでさア。空から降ってきたんですけどイ？」

ちよっ…何か非常に失礼なこと言われてるような。

「やめろ、総悟。ちゃんと息はある。彼女はきつとシータの生まれ変わりなんだ。きつと破壊の呪文によって、ラピユタから地上に降りてきたに違いない」

「近藤さん、降りてきたんじゃない落ちてきたんだよ」

何？何でジブリ？あー…何か頭痛くなってきた。

「あの一すみません」

「…うわあっ！」「…」

私が突然、目を開け、手を挙げ喋ったからだろうか。視界に入ってきた男三人組が驚いたように一気に退いた。

「トシイイイ！！喋った！死体が喋った！」

いや、死んでないから。何、このゴリラみたいな男。あんたさっき

まで息はあるとか、シータだとか言ってたじゃんか。

「うるせーよ！生きてっから喋んだよ！」

煙草を加えた男は額に青筋を立てて怒鳴っていた。

うわー…怖い、この人。何か瞳孔開いちゃってるし、ヤバい。絶対ヤバい。

「大丈夫ですかイ？アンタも悪運の強エ野郎だ」

綺麗な顔、可愛い顔してるけど男の子だよね？いや、でもこの声…コイツ、私のこともう手遅れとか言っただよね？

いや、てかその前に

「あの…ちょっと起こしてもらっていいですか？全身生まれたてのバンビなんです、生まれたばかりなのに死にそうなんです」

この男達、私が空から落ちてきたとか意味わかんないこと言ってるけど、確かに全身が針に刺されたように痛い。てか、何で生きてんの？私。

「おお、すまんすまん」

ゴリラみたいな人が、私を起こしてくれた。

「すみません、ありが…と…」

言葉が……続かなかった。

「…おい、本当に大丈夫か？」

「やっぱり頭やられたんでさア」

「どうしたんですか？シータさん」

彼等の言葉は一切耳には入ってこなかった。

「……何処？」

空には空飛ぶ戦艦、瓦屋根の街並み、着物を着ている人々、…エイ  
リアン？

「何言ってるんだアンタ、ここは江戸だろ」

瞳孔開いた男は呆れたように言い捨てた。

いや……意味わかないからあああ！！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4955i/>

---

ようこそ！？銀魂ワールドへ！

2010年10月11日18時07分発行